

黒島小中学校だより ~立夏の頃~

教育にへき地があってはならない！

山野に新緑が目立ち始め、風も爽やかになって、いよいよ夏の気配が感じられる頃。春分と夏至のちょうど中間あたり、暦では夏が始まります。山では、ウグイスのホーホケキョという鳴き声が響き渡っています。

5月は、落ち着いてしっかりと学習に励む時期でもあります。今回は、「長崎短期大学との交流」「大崎分校とのテレビ会議システムでの交流」「校内弁論大会に向けて」での子ども達の様子を紹介します。本校のように離島の小規模校にとって、大勢の大学生（半分以上が外国人）と交流したり、他校の児童と授業をしたり、保護者や地域の方々の前で、自分の考えを堂々と述べたりする体験は「生きる力」を育てるうえでとても大切だと考えています。「地理的なへき地はあっても教育にへき地があってはならない。」校長室に代々飾られている言葉です。黒島だからできることも含めて、しっかりとその力を育てていきます。



【長崎短期大学学生との交流】5月9日
70名余りの学生が来島しました。色々な国の学生がいて、国際色豊かでした。自国の紹介、鬼ごっこやゲームでの交流、高学年児童による名所の紹介もありました。

【大崎分校との交流】5月15日
宿泊学習と一緒に大崎分校児童との顔合わせをしました。宿泊学習前にもう一度交流予定です。



【校内弁論大会に向けて】
6月1日の本番に向けて、演題書きをしました。練習を積み重ね、発表します。多くの参観をお待ちしています。

